

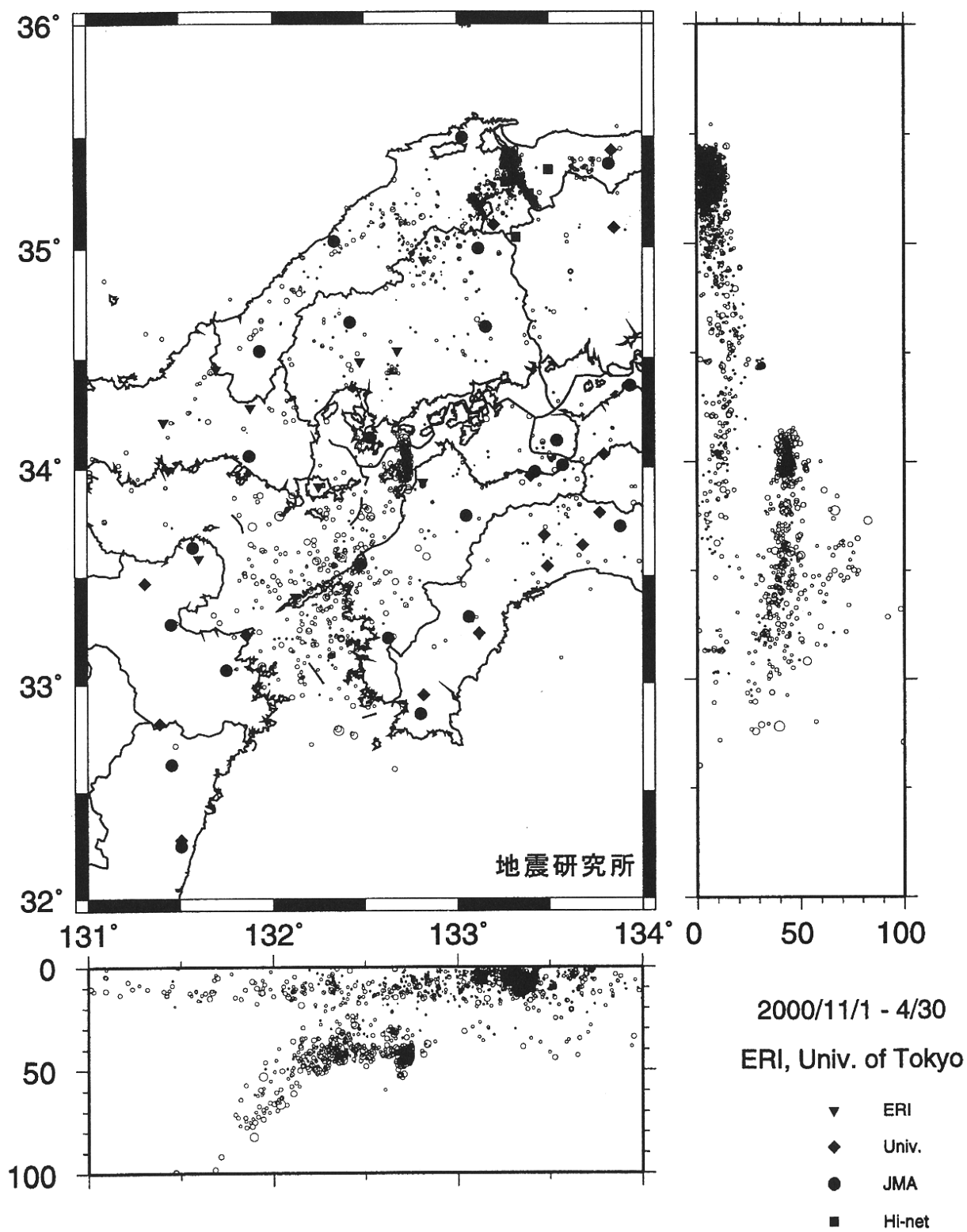
8-4 瀬戸内海西部の地震活動 (2000年11月～2001年4月) Seismic activities in the western Setonaikai (Nov., 2000-Apr., 2001).

東京大学地震研究所 地震地殻変動観測センター
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

この地域では、鳥取県西部地震 (2000年10月6日)、2001年芸予地震 (2001年3月24日) に相次いで大きな地震が発生し、その余震が数多く観測された (第1図)。鳥取県西部地震は内陸の浅い地震で、最近10年間に何度か群発地震が発生した地域で起きたが、それまで地表に顕著な活断層は報告されていなかった場所である。

2001年芸予地震は、沈み込むフィリピン海プレート内で発生した正断層型の地震で、プレートの沈み込みに伴う地震活動 (1984-2001) の北端に位置する (第2図)。この余震活動を Double-Difference 震源決定法で再決定すると、幅5km長さ25kmの狭い領域に集中する (第3図)。この余震分布は、本震のすべり分布 (Yagi and Kikuchi, 2001) のすべりが少なかったところに集中している (第4図)。

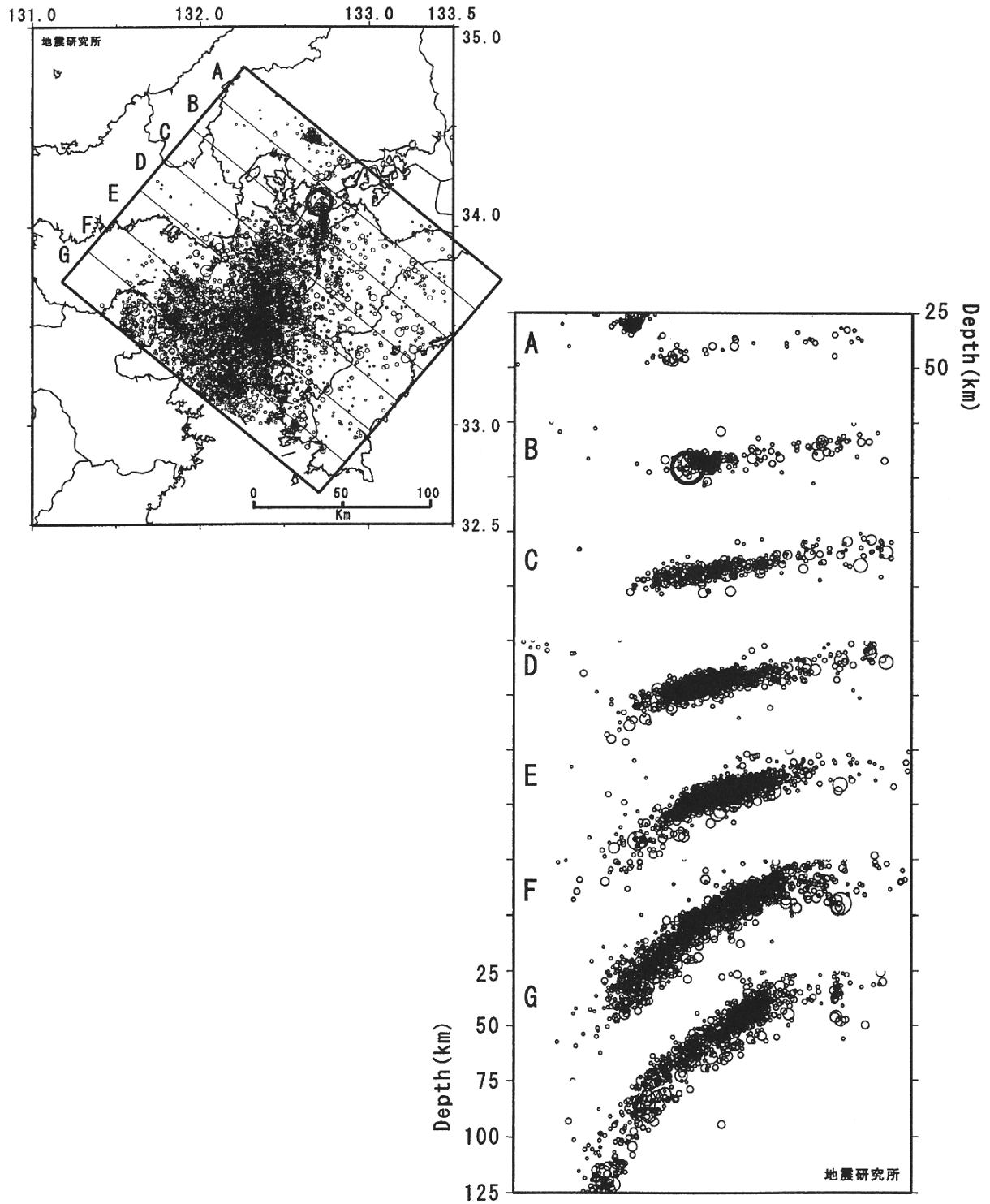
(酒井慎一)



第1図 瀬戸内海西部とその周辺の地震活動 (2000年11月1日~2001年4月30日)

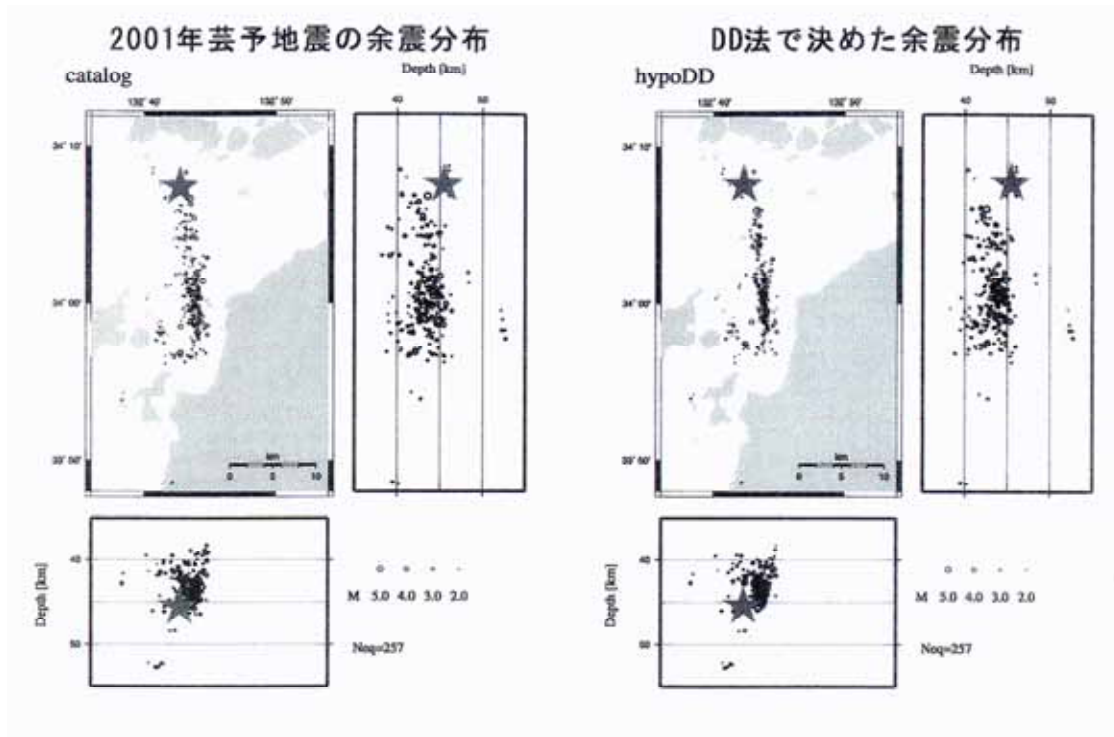
Fig.1 Seismicity in and around the western Setonaikai (2000/11/1 - 2001/4/30).

1984.1.1 - 2001.4.30 M>2.0 D>25km

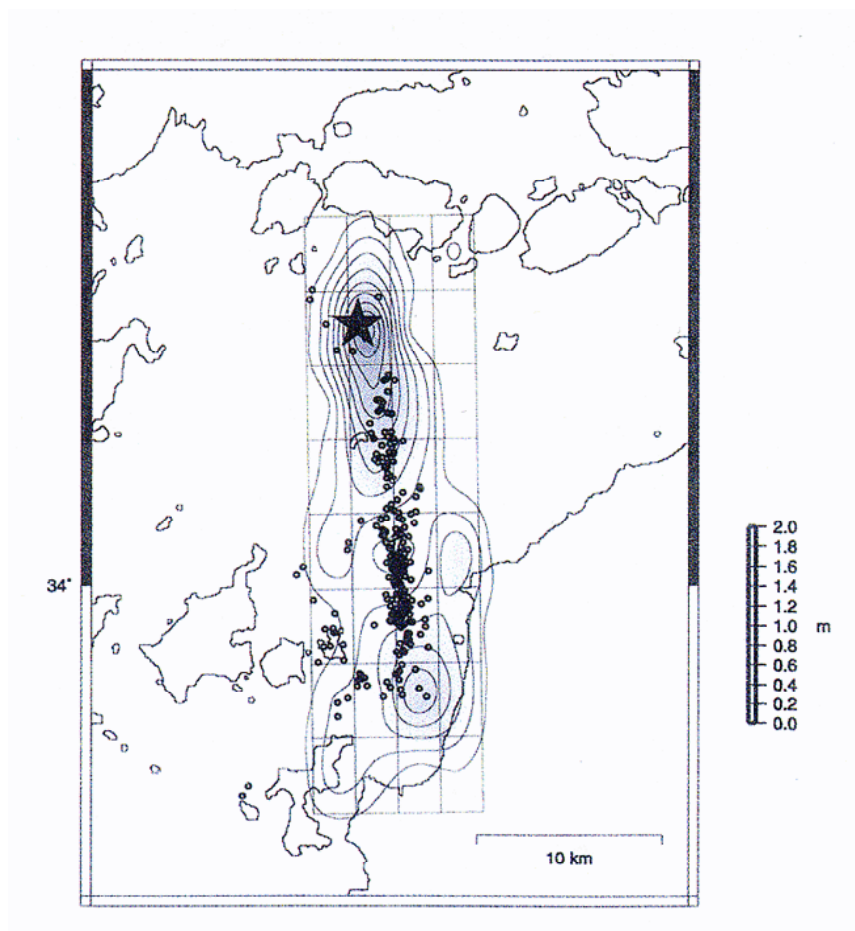


第2図 25km以深の震源分布と断面図 (1984/1/1-2001/4/30)

Fig.2 Seismicity and cross-sections (1984/1/1 - 2001/4/30).



第3図 2001年芸予地震の余震分布
 Fig.3 Aftershock distribution of 2001 Geiyo earthquake.



第4図 本震のすべり分布と余震分布
 Fig.4 The slip distribution of main shock and the aftershock distribution.